



平成28年12月7日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所

名古屋港でJICA研修員の視察を受入れ（報告）

～総取扱貨物量連続日本一を誇る名古屋港の港湾整備を紹介し国際協力に貢献～

中部地方整備局は12月5日、JICA（独立行政法人国際協力機構）が実施している「社会基盤整備における事業管理」研修の一環で来日している各国研修員を、総取扱貨物量（14年連続）、自動車輸出台数などで日本一の名古屋港に迎え、高潮防波堤の改良事業などの視察案内をしました。

1. 概要

国土交通省では、JICAとの連携による国際協力を積極的に推進しています。本視察は、研修参加者各国の公的機関において社会基盤整備の事業管理に関する制度や施策に係わる部署の方を対象に、自国での課題を踏まえ、本研修における講義や視察を通じて自国への導入・応用等を検討するためのものであり、名古屋港では高潮防波堤等の港湾施設の整備状況を船に乗り海上から視察しました。

2. 実施内容等

日時：平成28年12月5日（月）10:30～12:00

場所：名古屋港内

行程：10:30～12:00 名古屋港の海上視察
（高潮防波堤、コンテナターミナル等を海上より視察）

視察者：以下の各国より研修で来日の方々、計14名

ネパール、パプアニューギニア、サモア、アフガニスタン、トルコ、ガーナ、ジンバブエ、コンゴ民主共和国、南スーダン

3. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真をご希望の場合は対応しますので、お問い合わせください。

3. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、日本海事新聞、港湾空港タイムス、海事プレス

4. お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

名古屋港湾事務所 企画調整課 三崎（みさき）、前川（まえかわ）

Tel 052-651-6763 Fax 052-651-0303

■研修の様子

1. 研修の参加者、行程、内容

視 察 者 : 以下の9か国より、計14名の方が視察

ネパール、パプアニューギニア、サモア、アフガニスタン、トルコ、ガーナ、ジンバブエ、コンゴ民主共和国、南スーダン

行 程 : 平成28年12月5日(月)

10:30~12:00 船舶に乗船し名古屋港を海上より視察

内 容 : 船舶に乗船し、名古屋港の高潮防波堤、岸壁、航路等の社会基盤(インフラ)施設の海上視察を行い、整備の必要性と効果について理解していただくとともに、完成自動車の船積み状況、コンテナターミナルの荷役状況等も海上より視察し、名古屋港が中部圏の「ものづくり産業」を支えていることについて理解していただきました。

研修員は、国内で10月17日~12月9日の間に研修を行うこととなっており、名古屋港での視察終了後は、研修における講義や視察内容に基づき、自国への導入・応用等を検討することとなっています。

2. 視察の様子

研修員は海上視察において、職員による高潮防波堤、航路及び岸壁の整備状況の説明及び臨海部の産業についての説明を熱心に聞き、視察後の質問時間では“貨物量が港湾の処理能力を超えることはないのか?” “名古屋港での今までの大きな災害は?” “高潮防波堤以外の臨海部の防護施設は?” などの質問が多くあり、施設整備への関心の高さが伺えました。

[テキストを入力]

(視察時の様子 (写真))



船舶に乗船し名古屋港の説明を聞く研修員



高潮防波堤の視察状況



職員が質問を受けている様子



研修員と案内職員で集合写真

(視察後の感想)

視察後に感想をお聞きしたところ、以下の感想を述べられました。

「名古屋港は自国の港湾と比較して比べものにならないくらい広い。」「自分の国では、現在、津波や台風などの影響を考慮し、港湾機能や発電所を内陸寄りに移転すべく計画しているところであり、名古屋港の視察は計画する上で大変参考になった。」などの感想がありました。